

海外にお侍さん発見っ!!

第6弾

P様より

こんにちは、島谷貴子です。またまた、海外に素敵なお侍さん34歳の侍さんを見つけた!!アメリカ在住のP様に、とても素敵なお仕事の写真を送って頂きました!!

研前



研後



完成

柄、鞘 製作中~

←P様の仕事のサインは「青山」だそうです!!



アメリカで「研ぎ」や「拵え」のお仕事をされているP様に質問してみました!!

Q1 なぜ刀の研ぎや、刀装具を作ろうと思ったんですか?

日本にも歴史にも興味がなかった私が8歳の頃、祖母にスペインへ連れて行ってもらいました。その時にいったお店...今でも覚えている、埃っぽい小さなお店。無造作に物が置かれている店内で、ショーケースの中に一本だけ日本刀が綺麗に飾られていました。その刀に目を奪われたのがきっかけです。綺麗に造られた刀も、手入れをしなければ錆びてしまい、忘れられてしまう。錆びた刀も手入れすれば「美しさも、新しい歴史も100年以上続くであろう」と思い、刀の研ぎを始めました。これが私の想いです。

Q2 いつから始めたのですか?

今34歳ですが、15歳の頃に研ぎの練習の為にレプリカの刀を研いでいました。木材を利用し、柄や鞘を作る工程を学ぶため、19歳から木材を使った仕事を始めました。伝統的な作り方に近づけ、綺麗に研いだ刀を納めるために作ることが、最初に夢見てきたことです。まだまだ学びたいことが沢山あるので、これからが楽しみです。

P様の熱い想いが伝わってきました、ありがとうございます。写真からも、丁寧な仕事ぶりが伝わってきます。沢山の写真を送って頂きありがとうございました。これからも、日本人の想い、日本の刀が後世に残るように研ぎ続けてください。私達大名も、P様に負けないように、熱い想いで日本の良き歴史、古美術品を発信していきますっ!



新春

お年玉プレゼント

弊社のお客様が過去に当選された賞品

今年はあなたに当たるかも!?

同封の応募用紙に以下の項目全てご記入の上、Fax・メール・はがきにてご応募下さい。

- 1 クイズの答え
- 2 大和魂の正直な感想(酷評歓迎)
- 3 大名、大和魂へのご要望

※当選された方は写真を掲載させて頂きますのでご了承下さい。



今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名: ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はこちらから

ホームページ <https://daimyou.com/>

有限会社 大名 広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937



届けますっ!

大和魂

2019年2月 Vol.28

経営理念

有限会社大名は「届けますっ大和魂!」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

今年の一字挨拶

整



2月になりましたが、新年明けましておめでとうございます。花本隆資です。昨年も格別のご愛顧頂き、誠にありがとうございました。昨年は楽しい一年にしようと思い、「楽」という漢字をスローガンにして、一年を過ごしました。楽しい一年だったと思います! 2019年、今年は「整」という漢字をスローガンにしたいと思います。社内での色々な部分を整えたり、整理整頓が出来てない部分を整えたりする一年にしていきたいと思っています。健康診断での数値もあまり良くなかったため、身体のほうも、暴飲暴食を控え、整えていきたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願い致します。

向



皆様いかがお過ごしでしょうか?島谷貴子です。昨年「大名」、「大和魂」共に、ご愛顧頂きありがとうございました。2019年、私も母親となって12年目を迎えます。ついに、一番上の娘もこの4月、中学生になります。子育てって、一筋縄ではいかず、泣きたいことや、逃げ出したいことも沢山ありました。思春期な長女、反抗期中の次女... ●これからも、しっかり娘たちから逃げずに向き合う。 ●問題が起きても、解決に向かうように考える。母として、子供と共に更に成長できるように向上していけたらと思い、「向」にしました。本年もどうぞ、「大名」を宜しくお願い致します。

頼



こんにちは。中堀明美です。昨年は、あっという間に1年が過ぎた気がします。充実した日々を過ごす事ができました。今年の一文字は「頼」です。 ●仲間から、もっともっと頼りにされ、安心して任されるようになるっ!! ●自分ひとりで無理な事は素直に認め、仲間に頼る事で力を合わせ、共に成長していきたいっ!! ●お客様(貴方様)からのご要望を、安心して依頼されるようになるっ!! を目標に頑張りたいと思っています!! 2019年もどうぞ、よろしくお願い致します。

こんにちは。中堀明美です!

お客様から、「何で短刀には色々な形があるのですか?」とご質問を頂きましたので、今号では短刀(刀身の長さが一尺(30.3cm))以下の刀について語らせて頂きます。

語ります 大和魂

~最初の用途~

平安時代ごろまでは、火で炙り加熱消毒して、へその緒を切っていたそうです。その後、元服(成人を示すものとして行われた儀式)で元結(髪を束ねる紐)や髪先を切ることなど、儀式的な事に使用されていました。

刺刀

鎌倉時代、兵士たちの主要武器は薙刀でした。武器を失ったときや、乱戦になって薙刀(長い武器)が使えなくなった時に補助武器として使用されていました。やがて長くなり、打刀・太刀へと発展します。

鎧通し

刃の特徴は重ね(刃の厚み)が極端に厚く、刃先が細い。刀身に対し、茎が長い。鎌倉末期には、打物合戦が増加し、接近戦が主流になりました。鎧の上からでも突刺せるように、刃渡りを短くし、重ねを厚く鍛え、折れにくく頑丈に造られました。鎧の隙間を刺突する刺殺武器になりました。また、敵の首を討ち捕る際にも使用されていました。



因みに・・・通常の腰に差す腰刀は、左腰に差しますが、鎧通しは右腰に差します。敵と取っ組み合いになった時、組み伏せた敵に、鞘から刀を抜き取られてしまうと自分が逆に刺さってしまいますので、左手で敵を押さえつけ、右手で鎧通しを抜くために右腰に差していました。馬上で手綱を取る方が右手である事から、差し方を「馬手差し」と言います。鞘の栗形と返角を逆に取り付けている揺もあるそうです。



懐剣

小型で刀身が短く、小型なもの。合口拵が主に用いられている。狭い屋内、殿中など、刀の使用が禁じられている場所で、奇襲を受けた際の護身武器。男女問わず、護身用として懐や帯に忍ばせていました。懐に入れても邪魔にならないように、鍔がないそうです。

おそろく造り

刃長の半分以上が切先という異様な短刀。永禄頃(西暦1560年頃)、駿河(静岡県)の島田派の刀工「助宗」の短刀で、武田信玄の馬手差として知られていました。「おそろく」の彫りがあり、「おそろく造」の呼び名の元になっています。他にも「恐らくこんなものは他にあるまい」「恐ろしい短刀」など、諸説あるそうです。



以前、私は、刃が短い刀は全て「短刀」だと思っていました。調べていくと、使用目的によって「拵」や「刀身」の造りが変わっていた事に驚きました。また、邪気や災厄を払うものとして、出産や結婚などで「お守り刀」としても贈られていたそうです。脇差や刀の方が強そうなのに、なぜ短刀だったのでしょうか?

それは、最終兵器だった短刀に命を救われた人が沢山いたからだと思います。生死を分ける戦いの最中、刀の刃が折れてしまい、もうダメかもしれない!! と思いながらも、無我夢中で短刀を突き出し、何とか生き延びた人がいたのだと思います。だから「お守り刀」と言われるようになったのではないのでしょうか。

皆様はどのように感じられましたか? ご感想などを教えて頂ければ嬉しいです!! 短刀を眺めながら、タ〜イムスリップしてみてもいいのではないでしょうか? ご意見お待ちしております。



ハナエモンの



タ〜イムスリップ!



こんにちは!今号ではお客様からリクエストをいただきましたので、この方にタ〜イムスリップ!

槍の又左の異名を持つ、ソロバン大名

前田利家 1539~1599年



かぶきものイケイケな傾奇者

荒子城主(名古屋市中川区荒子)前田利春の四男として生まれた。14歳で織田信長の小姓(秘書、雑用)

等)として、仕えます。当時は、短気で喧嘩早く、派手な格好(女物のような派手な着物)をしていたそうです。16歳で元服し、初陣では、三間半(約6.3m)もある長い朱槍を握り、真っ先に突撃し、一番首を挙げる活躍を見せたそうです!それから3年後の合戦では、右目下を矢で射抜かれながらも、相手を討ち取る活躍を見せたそうで、この頃から「槍の又左」と呼ばれるようになったそうです。



首検分(誰を討ち取ったかを確認し、恩賞を決める場)でも矢が刺さったままだったそうです。この時の逸話から、隻眼だったのではないかという説もあるそうです。

妻から「ケチ」と呼ばれ

その後も活躍を続け、赤母衣衆(信長直属の親衛隊)の筆頭に抜擢され、順風満帆な利家でしたが、ある事件がきっかけで、2年間の浪人生活を余儀なくされます。その2年間での困窮生活から「とにかく金を持てば、人も世の中も恐ろしく思わないものだ。逆に一文無しになれば、世の中も恐ろしいものだ」と常々、語っていたそうです。ある時、敵に城を攻められ救援部隊を送ろうにも、兵士がいなかった状況に陥りました。



すると妻のまつが「これだけの金銀の蓄えがあるなら、これで平時の時から雇い入れておれば、こんな事にはならなかったのではないですか!」と金銀を利家に向かって投げつけたという逸話が残っています。

若い頃の苦勞から、当時、海外から入ってきたばかりの算盤を使いこなし、蓄財に勤しんだそうです。米相場の情報収集をし、蓄財した財産で投資をして、資産を増やしていったそうです。



ケチ呼ばわりされていた利家でも、北条家がほろんだ時には優秀な人を大勢家臣にしたそうです。また、後年、お金で困っている大名、武将にもお金を貸していたそうです。晩年、息子・家来達に「貸しているお金の催促はするな。前田家の味方になってくれる者、返せる状況にない者の借金に関しては、無いものとしてやれ」と、伝えたそうです。単純に蓄財を目的としていた訳ではなく、必要などころにしっかりと投資をする利家からは経営者として、学ぶべきことがありました。